

3/11 [土] 13:30~
ふるさとぴあプラザ

令和4年度春季歴史講座

松原市指定文化財 来迎寺所蔵 阿弥陀如来立像について



(会場) 元興寺文化財研究所
植村 拓哉 氏

出典作成 - 松原市教育委員会

書名	令和4年度春季歴史講座 松原市指定文化財来迎寺所蔵阿弥陀如来立像について
書名かな	れいわ4ねんしゅんきれきしうざまつばらしていぶんかさいらいごうじょぞう あみだによりいりゅうぞうについて
編著者名	植村 拓哉(うえむら たくや)
編集機関	-
発行機関	松原市教育委員会 一般財団法人松原市文化情報振興事業団
発行年月日	2023年3月11日
郵便番号	580-8501 580-0016
電話番号	072-334-1550 072-336-6800
住所	大阪府松原市阿保1-1-1 大阪府松原市上田7-11-19
備考	松原市民ふるさとぴあプラザで令和5年(2023)3月11日に実施した「令和4年度春季歴史講座」の配布資料である。配布資料の著作権は、表紙画像を除いて作成者である植村拓哉(公益財団法人元興寺文化財研究所)に帰属する。なお、公開に際し松原市教育委員会事務局文化財課がPDFファイルに文献などへのリンクを追加している。 本講座は松原市教育委員会と一般財団法人松原市文化情報振興事業団が共同で開催したものである。

PDFファイル制作日: 2023年3月15日

松原市指定文化財 来迎寺所蔵

阿弥陀如来立像について

(公財)元興寺文化財研究会

植村 拓哉

はじめに

- 松原市所在の文化財総合調査

- ・ 来迎寺調査

2017～2018 年度 現地調査

2019 年度 報告書刊行『[松原市内所在の文化財総合調査Ⅱ](#)』(彫刻絵画・工芸品・

染織品・位牌・聖教・木札・絵図・石造物)

2020 年度 報告書刊行『[松原市内所在の文化財総合調査Ⅲ](#)』(古文書・版木・聖教)

1. 来迎寺像の像容と特色について

- 概要

- ・ [阿弥陀如来立像](#)

美原区・西福寺旧蔵／同区・泉福寺伝来

像高 102.4 cm、一木造り（カヤ材か）、両手先・足先・背・台座は後補

来迎印

- かたちと特色

2. 10世紀彫刻としての来迎寺像

- 「天台系薬師」と 10世紀後半の仏像

- ・ 「天台系薬師」とは

[比叡山延暦寺根本中堂](#)の本尊薬師如来像（秘仏）を模して造られた、あるいはその影響を受けたと考えられる仏像

【特徴】（清水 1975）

- ① 肉髻と地髪部を明瞭に区別せず、
- ② 髮際線を目深にかぶる頭髪の形式であり、
- ③ 細い三日月形の眼形で、
- ④ 翻波をつくらず、角のある山形の稜線を刻む太い襞の形式

- 来迎印を結ぶ阿弥陀立像

- ・ 阿弥陀如来像の姿かたち

日本における確実な來迎表現がみられるものは、天喜元年（1053）供養の[平等院鳳凰堂](#)屏絵の九品來迎図が最も早い。

來迎寺像の手首先は後補であり、天台系薬師のかたちに共通する点も勘案すると制作された当初は薬師如来像であった可能性がある。

3. 日本彫刻史における檀像と代用檀像

○ 檀木と檀像

・ 檀像とは

檀木を用いて制作された仏像。檀木は日本には自生せず、南インド、東南アジア地域などが原産地。色は白味（白檀）のあるものが一般的で、上等材には赤味（赤栴檀）・黄味（黄檀）を帯びるもの2種がある。木質は硬く緻密で、細かな彫刻に適し、仏像の用材として尊ばれた。

『肥大和上東征記』 宝亀10年(779)、淡海三船作

玉作人、画師、彫檀・刻鏤・鑄写繡師、修文・鑄碑等工手都て八十五人

・ 檀像の特徴

いずれも小像（約30~40cm前後）。材を複数組み合わせることをせず、一材より彫出。細やかで緻密な彫刻表現。彩色や金箔押しなどを行わないことによって用材の希少性を強調する。

・ 檀木と教理的背景

『十一面神呪心経』 656年、玄奘訳

まさに先づ堅好にして無隙の白栴檀香をもって、刻して觀自在菩薩を作りたてまつるべし。

長け一擧手半（約36cm程）に作れ。

『十一面神呪心経義抄』（意訳） 唐、慧沼撰

問：白檀のない国は何を使えばよいか？

答：手だてを尽くして必ず白檀を求めて作るべき。ただ“求めて得ざれば檀木を以て像を作るべきだ。何故ならば、觀世音は必ず白檀木像によって瑞應を現するからである”

○ 代用檀像と檀色

・ 代用檀像

檀木を用いずに、代用として認められた“檀木”をもって制作された御像。造形は檀像を意識しつつも、大きさの制限が解消されたことから、等身大のものも造られるようになる。

黄檀：カヤ・ヒノキなど

赤栴檀：サクランボツラ

・ 檀色

上質の檀木に似せるために像の表面に薄く彩色（黄味・赤味）を施す。

『肥大和上東征記』 元慶7年(883)、講堂条

金色仏眼仏母如来像 一軸

金色弥勒如来像 一軸

檀色薬師如来像 一軸

彩色如意輪觀音菩薩像 一軸

〔参考文献〕

菅水壽三「長源寺薬師像について」『仏教藝術』101号、1975年（後に『平安彫刻史の研究』に再録）

井上正「觀音寺十一面觀音立像について—檀像系彫刻の諸相II—」『学識』5号、1983年

菅水壽三「平安前期における延暦寺の彫刻」『仏教藝術』172号、1987年（後に『平安彫刻史の研究』に再録）

伊東史朗「日本の美術 479 十世紀の彫刻」至文堂、2006年

鎌木亮博「檀像の請來と日本の展開—檀木彫刻論序説—」『鹿園雑集』13号、2011年

尾木政統「天台宗における模刻の意義」『哲學』148集、三田哲学会、2021年